

経営比較分析表（平成30年度決算）

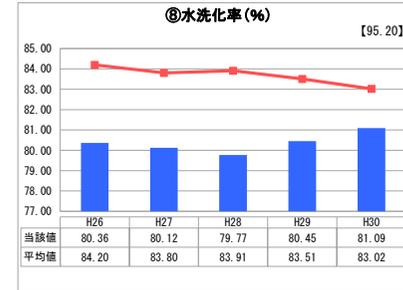
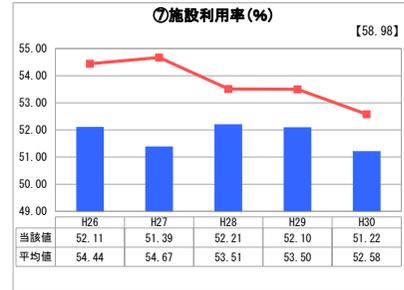
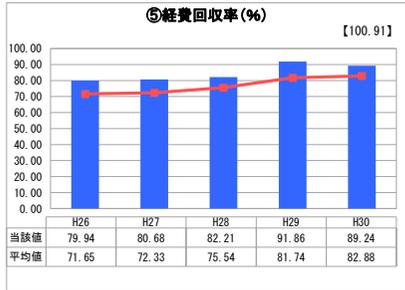
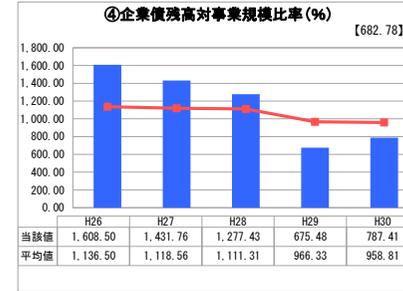
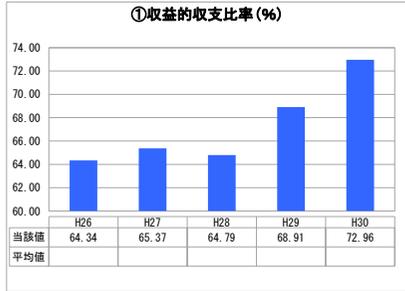
山形県 新庄市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	53.40	74.57	3,726

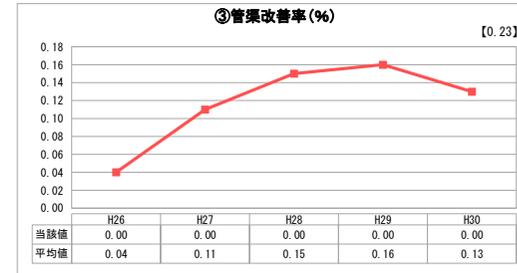
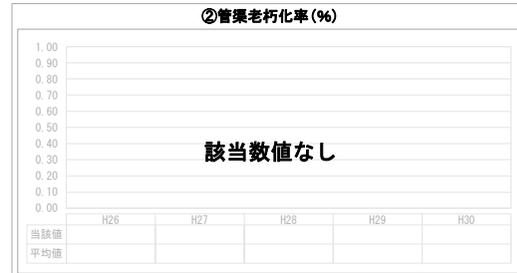
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
35,849	222.85	160.87
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
18,938	5.28	3,586.74

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は72.96%であり、前年度から4.05ポイント上昇した。前年度と比較すると、総費用と地方債償還金が減少しており、経営改善の取組の成果が伺える。

②企業債残高対事業規模比率は787.41%であり、類似団体平均値と比較すると低い数値ではあるが、全国平均及び前年度からの数値では高くなっている。地方債現在高は年々減少しているが、今後も未普及地域解消のための面整備もあることから、適正な企業債発行に努める。

③経費回収率は、比率が100%未満であり、使用料収入で回収すべき経費が賸えていない状況にある。汚水処理費の増加と使用料は微増だったが、整備完了=下水道接続数に繋がっていないためと思われる。

④汚水処理原価は、類似団体と比較して高い数値となっている。前年度の数値と比べ、有収水量は増加しているが、それ以上に汚水処理費が増加したため、処理原価も8円ほど高くなった。

⑤施設利用率は、51、52%で推移している。今後、ダウンサイジングも含めた施設の活用について検討していく必要がある。

⑥水洗化率は、81.09%と前年度から数値は向上しているが、類似団体と比較して低い数値となっている。更なる個別訪問の強化やPR活動による下水道への理解を促進し、未接続世帯の減少に努める。

2. 老朽化の状況について

管渠の更新・改良の時期は到来していないが、今後は財政状況も考えながら、計画的に更新・改良を進めていく必要がある。

全体総括

経営の健全性・効率性を示す指標は、類似団体と比較すると良好ではあるが、現在も整備事業を進めていることから、水洗化率や経費回収率が100%となっていない。普及率も53%と県平均を大きく下回っているため今後も計画に基づいた整備を進めていくが、より効率的な投資や国の交付金事業を活用しながら、費用の抑制に努めていく。

収入においては、未接続世帯等への接続推進活動を強化し水洗化率の向上に努めるとともに、適正な使用料水準の設定を行い、収入の増加を図っていく。

管理面では令和2年4月から公営企業会計へ移行するが、経営、資産、財政状況を正確に把握し、一般会計繰出金に頼らない事業運営に努め、住民サービスを将来にわたり安定的に提供していく考えである。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。